

久喜小学校

久慈中学校



# 前に、前に

被災者が出た小・中学校6校のうち久慈中学校と久喜小学校の卒業式を取材。そこには力強く前に進もうとする子どもたちと、支える大人たちの姿がありました。



卒業証書を受け取る前児童会長の坂本莉奈子さん

家屋に漁港、漁船など、災害の爪あとが深く刻まれた久喜地区。津波に襲われた3月11日、久喜小学校（澤田晶子校長・児童61人）は午前授業で、地震発生時、児童はすでに下校してばらばら。地域の人たちの避難誘導で助かったものの5人が住宅を流されるなどの被害を受けました。

同校の卒業式は、臨時休校明けの3月18日。災害以降、避難所での生活を続ける児童も含め、全員が出席しました。一人一人の長所を紹介しながら卒業生10人に卒業証書を手渡した後、澤田校長は「家

**旅立ち 勇気を胸に**



「手を携えて」と川又会長

しかし卒業式は、厳しい状況にも負けないという意思表示をするかのように、滞りなく進行。卒業証書の授与に続き、宇部校長は「未曾有の災害を教訓として、助け合い、困難を乗り越えていってください」と卒業生171人にエール。川又裕吉PTA会長

市民の足である市民バスと三陸鉄道が一部運行を再開した3月16日、予定から4日遅れて久慈中学校（宇部澄男校長・生徒523人）の卒業式が開かれました。

大災害が発生した3月11日は、当初予定していた卒業式の前日。生徒、教職員も全員無事でしたが、約20人が住宅などに大きな被害を受けました。

**困難乗り越える決意**

卒業生は門出の言葉で「たくさんの人に守られ、支えられてきたことへの感謝を忘れず、勇気を胸に旅立ちます」と大きな声。不安な心を抑えて胸を張り、たくましい姿を見せました。下級生や保護者教職員からは温かい拍手。多くの人に見守られ、10人は未来へ一歩、踏み出しました。

旅立ちの3月18日。災害以降、避難所での生活を続ける児童も含め、全員が出席しました。一人一人の長所を紹介しながら卒業生10人に卒業証書を手渡した後、澤田校長は「家



「命を大切に」と澤田校長



しっかりと前を向き、退場する卒業生

は「災害で見通しがつかないほどの甚大な被害を受けた今、わたしたちに必要なのは手を携えて助け合っていくことです。元気に、元気に、暮らしていきましょう」と勇気づけました。

卒業生を代表し、川又康了くんは「以前のよう暮らしに戻るとは、さまざまな問題に立ち向かっていかなければなりません。みんなで支え合い、困難を乗り越えていきます」と力強く決意を述べました。

卒業生、在校生、教職員、保護者の一体感が感じられた卒業式。卒業生は誰もがしっかりと前を向き、学び舎を巣立ちました。